

巻 頭 言

山形県高等学校教育研究会
工業部会長 阿 部 進
(鶴岡工業高等学校長)

本部会の運営につきましては、会員の先生方からご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。理事・代表者会をはじめ、関係部会、そして研究発表会と各事業を円滑に進めることができましたことに重ねて御礼申し上げます。

さて、現在、我々が住む地方は少子高齢化に伴う地域活力の低下が危惧され、将来に対する悲観論も多く聞こえてきます。事実、本県は生産年齢人口減少率全国3位(25年3月推計 国立社会保障・人口問題研究所)であり、また本県産業の総生産は、ここ数年来、マイナス成長が続き、製造業においても同じ傾向にあります。こうした現状は、地域社会の活力の低下はもちろん、社会機能の低下にもつながってくるもので、地方にとっては見過ごすことのできない大きな課題となっています。

しかしながら、人々はこうした現状を黙って見過ごし、地域活力の衰退をただ待ち受けるはずはなく、様々なアイディアと創造力で解決していくに違いないことも事実であると思います。

その解決のキーはいくつかあると思われるが、なんといっても工業の力の果たす役割は絶大であるものと確信します。

現在の産業界にはインダストリー4.0と言われる第4次産業革命が着実に押し寄せ、やがてAIや協働型ロボットがあつという間に導入され、こうした製造業の革新が人手不足を解決し、地方の困難を乗り越えて行くに違いないと思われれます。しかし、ロボットと机を並べ一緒に働く日が来ようと、またビッグデータやAI技術が進化し新たな価値を生み出そうとも、究極は人間の知恵や感性がいつの時代でも求められることも事実であります。そのためにも、高校生をはじめとした若者には、自分が生まれ育った地域を理解し、可能性を見つけていくという教育活動を展開していくことが大切なのではないのでしょうか。

「学んでいる技術や知識がどのように社会や未来につながるのか」あるいは、「どのように将来の地域や社会を支えていくのか」という視点を持たせた工業教育が問われています。そこには、生徒一人ひとりが社会や地域、あるいは自分の課題にしっかりと向き合い考え、悩み、そして知恵を出し合って解決していく力が求められています。

次の学習指導要領では、「何を教えるか」という知識の量の改善に加え、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが求められ、課題発見とその解決に向け主体的・協働的な学びとそのための指導方法の充実が求められています。先生方には、技術の進展に対応した知識・技能の指導に加え、高い志をはじめ、たくましく生き抜いていく力のベースとなる社会とのかかわりを意識して、ものづくり体験の質に磨きをかけた教育にあたっていただくことを期待したいと思います。

本部会が教員の資質向上はもとより、研究・調査と諸課題の解決に向けた取り組みをとおして、より一層充実した研究会になるようお願いし、そして工業教育の活性化をとおして山形県の活力と創生につながることを期待します。